

平成 26 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分類] 普及技術

[成果名] 飼料用とうもろこし 6～7 葉期散布において生育期雑草茎葉処理剤としてアルファード液剤は有効である

[要約] アルファード液剤を飼料用とうもろこし 6～7 葉期に 10a 当たり 150mL を処理すると一年生雑草に対して防除効果がある。

[担当] 畜産試験場飼料環境部

[部会] 畜産部会

1 背景・ねらい

飼料用とうもろこし 6 葉期以降の一年生雑草の防除において土壌処理剤の効果が薄れて雑草の発生が見うけられるが、有効な茎葉処理型の除草剤がなかった。アルファードの散布時期を拡大することで除草効果検討する試験を平成 25 年および 26 年に実施したところ効果が認められアルファードの使用時期等も平成 26 年 9 月に追加登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) アルファード液剤（トプラメゾン液剤）を飼料用とうもろこし 6～7 葉期に 10a 当たり 150mL を処理すると一年生雑草に対して防除効果がある。

農薬登録内容

アルファード液剤

[有効成分] トプラメゾン 3.6%

[人畜毒性] 毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] A 類相当

[対象作物に対する適用登録状況]（平成 27 年 3 月 2 日 JPP-NET 確認）

作物名	適用雑草	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量	適用地帯	トプラメゾン	適用更新日
飼料用とうもろこし	一年生雑草	150ミリリットル/10a	雑草茎葉散布	とうもろこし 6～7 葉期（但し、収穫 45 日前まで）	1回	100～150リットル/10a	全域	1回	2014年09月10日

3 利用上の留意点

- (1) 使用上の留意事項は「農作物病害虫・雑草防除基準（長野県）」に掲載されているアルファード液剤の項を参照する。
- (2) 本剤の使用時期はとうもろこし 6～7 葉期で、収穫 45 日前までである。また、土壌処理剤との体系処理が望ましい。
- (3) 本剤およびトプラメゾンを含む農薬の総使用回数は 1 回であり、とうもろこし 3～5 葉期の散布も登録があり、3～5 葉期または 6～7 葉期のどちらかの時期に散布する。
- (4) 散布時の展開葉に黄斑を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響しない。
- (5) 雑草生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると散布ムラが生じて薬がかからず効果が劣ることがあるので、時期を逸せず、均一にしっかりかかるように注意して散布する。

4 対象範囲

県下全域（飼料用とうもろこし栽培地帯）

5 具体的データ

(1) 平成 25 年度、26 年度試験のとうもろこし 6～7 葉期散布において、アルファード液剤はメヒシ

バ、オヒシバ、イヌビエ、シロザ、ハキダメギク、アオゲイトウ、スベリヒユ等の一年生雑草に対して除草効果があることが認められた(表1、表2)。また、薬害は両年度とも観察されず、生育抑制も見られなかった(表3、表4)。

表1 アルファード液剤の一年生雑草防除効果¹⁾(平成25年、畜産試験場)

除草剤名	処理量 (mL/10a)	水量 (L/10a)	イネ科雑草			非イネ科雑草			雑草 総計
			メヒシバ	オヒシバ	他	シロザ	スベリヒユ	アオゲイトウ	
アルファード 液剤	150	100	0%	0%	0%	2%	0%	8%	6%
	150	150	0	0	t	4	0	5	5
ワンホープ 乳剤	150	100	t	t	t	t	0	1	t
無処理			25.5	40.0	4.7	639.7	2.9	2,033.8	2,746.8

1) 除草剤各処理区の数値は対無処理区比(%)、無処理は生重(g/m²)。発生はあるが四捨五入して0になるものは「t」とした。

試験方法：試験場所は畜産試験場場内ほ場(表層腐植質黒ぼく土、標高760m)、株間16cm、畝間75cm、平成25年5月20日播種、アルファード液剤は6月27日処理(とうもろこし6~7葉期)、ワンホープ乳剤は6月19日処理(3~4葉期)、7月23日調査、とうもろこし品種：タカネスター、1区12m²、2反復

表2 アルファード液剤の一年生雑草防除効果¹⁾(平成26年、畜産試験場)

除草剤名	処理量 (mL/10a)	水量 (L/10a)	イネ科雑草			非イネ科雑草			雑草 総計
			イヌビエ	シロザ	ハキダメギク	アオゲイトウ	スベリヒユ	他	
アルファード 液剤	150	100	0%	t%	t%	t%	0%	0%	t%
無処理			1.9	3,996.1	1,206.0	1,031.8	3.6	133.5	6,372.9

1) 除草剤各処理区の数値は対無処理区比(%)、無処理は生重(g/m²)。発生はあるが四捨五入して0になるものは「t」とした。

試験方法：試験場所は畜産試験場場内ほ場(表層腐植質黒ぼく土、標高760m)、株間16cm、畝間75cm、平成26年5月26日播種、6月26日薬剤処理(とうもろこし6~7葉期)、7月22日調査、とうもろこし品種：タカネスター、1区9m²、2反復

表3 除草剤がとうもろこしの生育および収量に及ぼす影響(平成25年、畜産試験場)

除草剤名	処理量 (mL/10a)	水量 (L/10a)	薬害	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	乾物収量 (kg/10a)	同左比率
アルファード 液剤	150	100	無	257	114	2,705	94
	150	150	無	253	115	2,742	95
ワンホープ 乳剤	150	100	無	260	113	2,844	100
無処理				245	116	2,334	81
完全除草				250	110	2,881	100

試験条件は表1のとおり。調査は平成25年9月8~9日

表4 除草剤がとうもろこしの生育および収量に及ぼす影響(平成26年、畜産試験場)

除草剤名	処理量 (mL/10a)	水量 (L/10a)	薬害	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	生草収量 (kg/10a)	同左比率
アルファード 液剤	150	100	無	255	128	7,223	101
無処理				277	128	6,511	91
完全除草				273	133	7,139	100

試験条件は表3のとおり。調査：着雌穂高、稈長は平成26年8月21日、収量は9月9日

6 特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分] 畑作・冬作関係除草剤適用試験、平成 25 年度～26 年度、民間受託
県植物防疫協会委託試験